

タイトル「**2022年度危機管理学部(公開)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT2602		
科目名	危機管理基礎演習Ⅱ		
担当教員	吉田 正法		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	火 3		
講義室	1313	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
科目大分類	専門		
科目中分類	専門基幹		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード - 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-E 〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP2-B 〔自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢〕自己の存在意義を知り、自らを高め続けようとする努力することができる。 DP3-H 〔論理的思考力・批判的思考力〕理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-F 〔探求力・課題解決力〕問を設定し又は論点を特定し、それに対する問・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 DP6-K 〔表現力・対話力〕文章及び口頭で、自らの考えを適切に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 DP7-C 〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP8-M 〔省察力〕知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。 ■CRコード - 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック (CR) との関連 B1 自己啓発 (5%) C1 倫理的思考・社会認識 (5%) E1 学識と専門技能 (20%) F2 課題解決 (25%) H1 論理的思考 (10%) I1 理解・分析と読解 (10%) K1/K2 ライティングコミュニケーション、オーラル・コミュニケーション (20%) M1 統合的・応用的学修 (5%)		
教員の実務経験	行政官としての現状分析や政策策定に携わった経験を踏まえ、安全保障・防衛問題の課題に対する理解を深めることができるよう、実務的な視点を交えながら支援したいと考えています。(第2回～第15回)		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 2 進行期 ～ 3 発展期		

科目概要・キーワード	危機管理に関する多様な研究領域の中から、学生個人がそれぞれ1つの研究テーマを構築するために必要な、危機管理に関する基礎的な演習を行います。危機管理学の専門基幹科目における法学科目や、専門展開科目における災害マネジメント領域、パブリックセキュリティ領域、グローバルセキュリティ領域、情報セキュリティ領域の4領域の危機管理系科目を担当する教員が担当し、それぞれの研究領域における研究の手法について指導します。ここでの学びが、3年次以降のゼミナールや危機管理特殊研究でのより専門的な研究活動へつながります。本科目では、専門的研究のテーマに基づいて、研究計画を構築し、プレゼンテーションを実施します。授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。	
授業の趣旨	■副題 現代の安全保障・防衛問題を理解する上で必要となる基礎的な知識を学びます。 ■授業の目的 安全保障・防衛問題への関心を高め、日本の安全保障・防衛問題を考える上で必要となる基礎知識を学びます。 ■授業のポイント 本演習では、安全保障・防衛問題に関する事象をより良く理解するための概念と理論を学びます。 演習では、指定された発表者が選択したテーマについてレジュメ（要約）を作成して口頭発表を行い、グループディスカッションやグループワークを行います。その成果については、教室全体で共有し、全体討議を行います。すべての演習参加者が協働して、①教材を通じたテキストの著者との対話、②他の演習参加者との対話、③演習実施前の自己との対話という三つの対話を深めることで、演習参加者各自の知識と教養の深化と人格の陶冶（どのように世界と関わり、より良い人生を送っていくのかということに関する自分軸の形成）を目指します。	
総合到達目標	■安全保障・防衛問題を理解するための基本的概念と理論を理解し、さまざまな事象について自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べることができる。 ・今日の国際社会の現実を説明できる。（第2回～第8回） ・現実を踏まえながら、理想を実現する方法を説明できる。（第9回～第15回）	
成績評価方法	■授業参加度（50％）：適用ルーブリック C1・E1・F2・H1・I1・K2 （評価の観点）発表、発言、質問、意見の交換など授業構築への参加度を評価します。 （フィードバックの方法）授業の場でフィードバックします。 ■レポート（20％）：適用ルーブリック C1・E1・F2・H1・I1・K1 （評価の観点）発表担当回に作成するレジュメの内容を評価します。なお、発表担当回以外に作成した読書ノートは加点の対象とします。 （フィードバックの方法）配布されたレジュメについて口頭で講評を行います。 ■実技・パフォーマンス（20％）：適用ルーブリック C1・E1・F2・H1・I1・K2 （評価の観点）発表担当回の口頭発表の内容を評価します。 （フィードバックの方法）発表に対して口頭で講評を行います。 ■ポートフォリオ（10％）：適用ルーブリック B1・M1 （評価の観点）学習の時間と内容等の記録用紙を回収し、適切な自宅学習がなされているかを確認・評価します。 （フィードバックの方法）記録用紙へのコメントの回答等により講評を行います。	
履修条件	危機管理基礎演習Ⅰを履修していることが条件です。	
履修上の注意点	ポータルサイト等を通じた連絡を必ず確認して下さい。教員から個別の連絡を受けた場合には必ず応答の連絡をして下さい。	
授業内容	回	内容
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 演習の全体の構成、演習の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法、レジュメ・読書ノートの書式と口頭発表の要領について説明し、各演習参加者が研究して発表を実施するテーマを決定し、グループ・ディスカッションの班等を指定して、受講者が受講の準備を整えられるようにする。 ③予習（45分以上） シラバスの内容を精査する。参考書等の教材に目を通す。シラバスの内容を踏まえて、この演習への参加を通じて達成すべき自分なりの成果の目標（15回の演習終了後に戦略研究に関して他者からも認められるようありたいと思う自分の姿）を設定する。その目標を達成するための方策、予想される困難とそれを克服する方法を考えて、自分が主体的に演習②参加する決意と覚悟を固める（例：シラバスに書かれている予習と復習の内容を必ずやり遂げる。判らないところは友人と相談したりオフィスアワーの時間

	に質問したりして放置しない。）。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） ガイダンスを振り返り、演習の目的と到達目標を確認する。授業関連資料を綴じ込むファイルを準備し、配付資料・レジュメ・読書ノート等を蓄積していく。自分の生活リズムの中で単位数に応じた予習×演習×復習の時間を確保する学習計画（日課表）を作成して、学修のPDCAサイクルを始動する。計画の進捗状況を点検し、目標の達成にとって困難な点が生じていれば克服するための工夫を凝らす時期と予定を立てる。学習の記録をつける。
2	①授業テーマ 国家と世界（国際社会）について ②授業概要 国際社会の実情について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
3	①授業テーマ 国家を守るための実力組織について ②授業概要 国家を守る実力組織の必要性について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
4	①授業テーマ 日本の再軍備と自衛隊について ②授業概要 日本における自衛隊の存在について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
5	①授業テーマ 現在の国際秩序 I－国際連合について ②授業概要 国際連合の設立による国際秩序について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭

	発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
6	①授業テーマ 現在の国際秩序Ⅱ－大国間競争について ②授業概要 大国間競争による国際秩序について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
7	①授業テーマ 現在の国際秩序Ⅲ－非核保有国について ②授業概要 非核保有国による国際秩序について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
8	①授業テーマ 非国家脅威への対応について ②授業概要 非国家脅威について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
9	①授業テーマ 平和とは何かについて ②授業概要 戦争と平和について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。（B1・C1・E1・F1・G1・K1/2・L1・M1） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（４５分以上） インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習（１５分） 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。

10	①授業テーマ シビリアン・コントロールについて ②授業概要 シビリアン・コントロールの重要性について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
11	①授業テーマ 徴兵制と志願制について ②授業概要 徴兵制と志願制の違いについて説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
12	①授業テーマ 軍事司法制度の必要性について ②授業概要 軍事司法制度の必要性について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B11・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
13	①授業テーマ 国家のために戦った者をどう扱うべきか ②授業概要 軍人(自衛官)への栄誉の付与について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるができるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
14	①授業テーマ 駐留外国軍問題について ②授業概要

	在日米軍基地問題について説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
15	①授業テーマ ゼミナール・特殊研究での研究テーマについて ②授業概要 ゼミナール・特殊研究での研究テーマについて説明し、自分の考えを述べ、他者の意見との比較でその長短を述べるようにする。(B1・C1・E1・F1・G1・I3・K1/2・L1・M1) 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習(45分以上) インターネットや図書館などで必要な参考文献を確認し、読書ノートを作成する。論点を踏まえ、演習で発言する準備をする。口頭発表予定者は、配布するレジュメと口頭発表の準備を行う。質疑応答に備えて自分の考えを整理しておく。学習の記録をつける。 ④復習(15分) 演習中にノートに書き留めたメモを整理し、理解がどの程度深まったのかを確認する。論点の意義について考察する。学習の記録をつける。
関連科目	国家と法(RMGT1141)、立憲主義と統治(RMGT1312)、安全保障論1(RMGT3551)、国際政治学(RMGT3552)、国際法(RMGT3451)、ストラテジー(RMGT3555)、国際テロリズム論(RMGT3558)、防衛政策(RMGT3557)、防衛法制(RMGT3452)
教科書	
参考書・参考URL	佐島直子『安全保障ってなんだろう』勁草書房、2011年、ISBN978-4-326-30202-4 ベイリス・ウィルツ・グレイ編『戦略論』勁草書房、2012年、ISBN978-4326302116 防衛大学校安全保障学研究会『安全保障学入門(新訂第5版)』亜紀書房、2018年、ISBN978-4750515434
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に通知します。 ■オフィスアワー 開講時に通知します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント0%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ80%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学80%：法学20%

